

## 5. 立面計画



- ◇立面計画の考え方  
庁舎周辺には比較的低層の建物が多いことから、眺望を妨げない建物構成とします。
- ◇立面計画の特徴  
大きな軒や日陰を形成する庇、ルーバー(日除け)などが外観に現れた合理的なデザインとします。

## 6. 防災拠点機能及び環境負荷低減について

### (1) 防災拠点機能計画

災害時などには災害対策本部機能を確保し、相互応援機能が円滑に活動できるような配置計画とします。フェイズフリーの考え方で、庁舎1階会議室を援助物資等の授援スペースにします。備蓄倉庫やイベント・防災エリアを利用して、消防署などの他機関との連携を図ります。

- ◇災害対策本部機能の整備
- ◇非常用発電機(3日分の燃料備蓄)
- ◇雑用水槽の設置(トイレ洗浄水:7日分)※雨水利用
- ◇緊急排水槽の設置(7日分)
- ◇防災広場の整備(マンホールトイレ設置)
- ◇備蓄品の保管スペースを附属棟に配置

### (2) 環境負荷低減計画

庁舎はコンパクトな形状として経済性に優れ、環境に配慮した施設とします。エネルギー使用の削減や再生可能エネルギーの導入によりZEB Ready以上の認証を目指します。

- ◇庁舎の東西軸配置による外皮負荷の低減(西日対策)
- ◇高効率空調の導入
- ◇LED照明、人感センサーによるエネルギー消費削減
- ◇吹抜けによる自然通風
- ◇ルーバー(日除け)の採用による空調エネルギー削減
- ◇節水型衛生器具の採用

## 7. 事業スケジュール(令和5年1月現在)

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
基本設計	■				
実施設計		■			
敷地造成工事			■		
新庁舎建設工事				■	
移転・什器搬入業務					■

※新庁舎の開庁は令和8年5月を計画しています。

○新庁舎建設基本設計(案)パブリックコメント実施期間

令和5年1月20日(金)から2月20日(月)まで

新庁舎建設基本設計(案)概要版等を市ホームページで公開しています。こちらから→

また、各庁舎でも閲覧できます。



# 南九州市新市庁舎建設基本設計(案)の概要をお知らせします

※この資料は基本設計(案)概要版を要約したものです。

## 1. 設計の基本方針

令和4年2月に策定された南九州市新庁舎建設基本構想・基本計画に基づき、目指すべき新庁舎の基本像を具現化するものとして計画します。なお、基本設計(案)には検討段階の内容も含まれており、今後の検討により変更される場合がありますので、予めご了承下さい。

### (1) 地域の安心・安全を支える防災拠点となる庁舎

- ◇耐震性能の確保  
防災拠点として耐震性能を確保し、災害時の事業継続を可能とする計画とします。
- ◇危機管理対策機能  
災害発生時のBCP対策の徹底を図ります。

### (2) すべての人にやさしい庁舎

- ◇わかりやすく利用しやすい窓口  
総合案内の設置やワンストップ窓口を導入します。
- ◇ユニバーサルデザイン  
すべての人にやさしく利用しやすい設計の採用や什器類(机・椅子・棚など)を選定します。
- ◇利用しやすい駐車・駐輪スペース  
出入口に近い位置に来庁者用駐車場を配置します。

### (3) 機能的・経済的なコンパクト庁舎

- ◇働きやすい柔軟な執務空間  
執務室はオープンフロアとし、ユニバーサルレイアウトにより執務スペースの効率化を図ります。
- ◇会議・保管スペースの効率化  
災害時の授援スペース確保を可能とする効率的な執務空間を計画します。
- ◇デジタル化への対応  
行政サービスのデジタル化による市民サービスの向上を図ります。
- ◇建設コスト削減への配慮  
文書・物品の削減に取り組み、コンパクトな平面計画によるコスト削減に努めます。
- ◇維持管理コスト削減への配慮  
メンテナンスバルコニーの設置による維持管理コストの削減に努めます。

### (4) 環境にやさしい庁舎

- ◇自然エネルギーの積極的活用  
庁舎の東西軸配置による熱負荷の低減と吹抜けによる自然通風を確保します。
- ◇省エネルギー技術の導入  
LED照明や人感センサーの採用など消費エネルギーを削減し、ZEB Ready以上の認証を目指します。

### (5) まちづくりに貢献し、市民の誇りとなる庁舎

- ◇市民に開かれた庁舎(市民開放スペースの計画)  
多目的交流室を整備し、イベントや閉庁時の解放などを想定した計画とします。
- ◇南九州市にふさわしい内外装デザインの検討  
木材の地域産材を積極的に活用します。
- ◇景観に配慮したデザイン  
景観に配慮した階層とし、周辺環境に圧迫感を与えないデザインや色彩を採用します。

### ■鳥瞰イメージ図



## 2. 建物概要(構造計画)

### 新庁舎

構造種別:鉄骨造(耐震構造)  
階数:3階  
建築面積:約2,300㎡  
延べ面積:約6,570㎡  
基礎形式:杭基礎  
耐震性能:構造体・I類, 建築非構造部材・A類, 建築設備・甲類

### 附属棟

構造種別:鉄骨造(耐震構造)  
階数:2階  
建築面積:約400㎡  
延べ面積:約800㎡

### 3. 配置計画

#### 【基本的な考え方】

- (1) 環境に配慮した、建物の東西軸配置  
県道側への正面性を確保しつつ、東西軸の建物形状とすることで環境負荷の軽減を図ります。
- (2) 防災機能を備えたオープンスペース  
庁舎南側で消防署との間は、まとまりのあるオープンスペースとしてイベント等が開催できる広場とします。かまどベンチやマンホールトイレを設けた防災広場としても利用します。
- (3) 安全で利用しやすい動線計画  
徒歩・コミュニティバス・自動車・二輪車など様々な交通手段を利用する来庁者の利便性を高めるため、適切な位置に建物出入口を設けます。駐車場内には歩道空間を設けて歩車分離を行うことで、安全な構内動線を確保します。

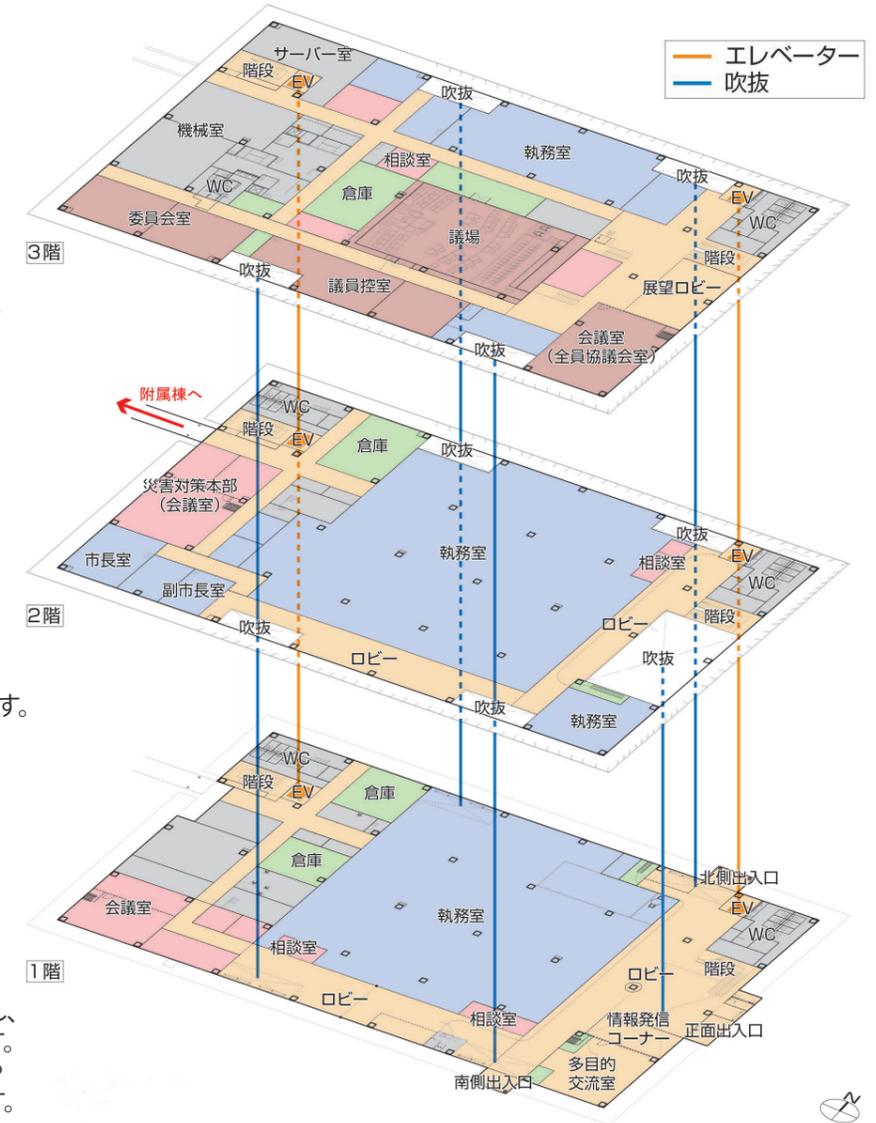
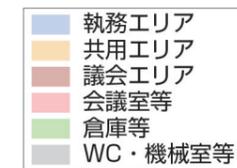


- ① 正面出入口：県道類娃川辺線に面して設置します。
- ② 北側出入口：ひまわりバスの乗降場所を整備します。
- ③ 車寄せ：庁舎正面に屋根付きの車寄せを計画します。
- ④ 来庁者用駐車場：正面出入口前に配置します。  
公用車及び職員用駐車場は庁舎の北側と西側に設ける計画です。
- ⑤ おもいやり駐車場：正面出入口横に配置し、車椅子の方や妊婦の方などに優先的に利用していただく計画です。
- ⑥ 駐輪場：庁舎北側に自転車・二輪車の屋根付き駐輪場を計画します。
- ⑦ 多目的交流室：庁舎内に閉庁時にも利用できる市民交流空間として計画します。
- ⑧ イベント・防災エリア：庁舎南側に芝生広場として配置しイベント開催や災害時の一時避難エリアとすることも想定しています。
- ⑨ テナント計画エリア：テナントを公募し、敷地を賃貸する計画です。
- ⑩ 附属棟：災害対応の備蓄品や文書類を収納する計画です。

### 4. フロア構成等

#### 【基本的な考え方】

- (1) 利用しやすいフロア構成  
窓口部門を1階に集約して市民サービスの向上を図り、ワンストップサービスの提供を目指します。出入口近くに総合案内を設置し、迷わず利用できるフロア整備を行います。関連部署の集約化や議会の独立性を確保した分かりやすいフロア構成とします。
- (2) 将来の変化に対応できる執務空間  
執務室はレイアウトの自由度が高いオープンフロア形式の空間を基本とします。また、自然採光や自然換気を適度に行える快適な執務空間を実現します。
- (3) 市民サービス、市民利用スペースの充実  
1階の多目的交流室及び3階の展望ロビーは市民利用スペースとして、閉庁時でも市民が利用できる計画とします。イベント時には南側の広場と一体的な空間として利用できる計画とします。



◇3階には議会機能を配置します。

◇非常時の災害対策本部機能を2階に整備し、災害等に備えます。

◇窓口部門を1階フロアに配置し、市民サービスの向上を図ります。  
◇1階東側には、多目的交流室や情報発信コーナーを設置します。



内観イメージ(1階ロビー吹抜け)

- 来庁者が気軽に立ち寄れる庁舎を目指します。
- 吹抜けによる明るい空間、わかりやすい機能構成、ゆとりある共用スペース、ユニバーサルデザインなどにより、すべての人に快適で利用しやすい庁舎を目指します。